

最終試験結果の要旨	
学位申請者 氏名	児島 一州
審査委員	主査 鹿児島大学 教授 白石 光也
	副査 鹿児島大学 教授 小原 恭子
	副査 鹿児島大学 教授 田仲 哲也
	副査 鹿児島大学 教授 三好 宣彰
	副査 山口大学 准教授 下田 宙
実施年月日	2023年1月17日
試験方法 (該当のものを○で囲むこと。) <input checked="" type="radio"/> 口答 <input type="radio"/> 筆答	
<p>最終試験において、申請者によるプレゼンテーションおよび質疑応答が行われた。</p> <p>プレゼン資料は文字を最小限にして、オリジナルのイラストを中心とした構成となっており、視覚的に内容を理解できるように配慮がされていた。さらに、スライドのアニメーション機能が随所に用いられていたことから「スライドのどの部分を注目すべきか」を瞬時に理解することができ、完成度の高いプレゼン資料であった。</p> <p>発表時の申請者の態度や話し方は熟練されたものであり、非常に高いレベルに達していた。常に聴衆全体をみながら適切な声量と速度で話す姿が好印象であった。話す内容も重要なポイントを抑えつつ無駄を省いたものとなっており、複雑な分子構造の説明でも極力端的に仕上げようとする努力が垣間みえた。また、上述のアニメーション機能に加えて、ジェスチャーやポインターを用いることで聴衆が注目すべき部分を強調するなどの創意工夫もみられた。それらの工夫と申請者の明瞭な話し方が合わさることで、極めて理解しやすい発表となっていた。</p> <p>質疑応答も真摯な姿勢で対応する姿が印象的であった。十問以上におよぶ質問にも混乱することなく、各質問に対して的確に回答していた。申請者の研究内容である「狂犬病ウイルスが関与する宿主自然免疫機構」に関して主に質問されていたが、冷静かつ簡潔に回答することができていた。また、研究内容からは多少離れた質問に対してはやや回答に困窮する姿がうかがえたものの、申請者が有する知識の中からより適切な回答ができるよう努力する真摯な態度が認められた。質疑応答全体を通して、申請者は質問者の意図を的確に理解した上で適切な受け答えができていたと判断される。</p> <p>また、すべての実験において、法規制及び倫理事項について遵守をしていたことから、申請者は研究倫理について十分に理解していると判断した。</p> <p>以上により、申請者は鹿児島大学大学院共同獣医学研究科博士課程修了者としての学力及び識見を有すると認め、博士(獣医学)の学位を与えるに十分な資格を有すると審査員全員一致で判定した。</p>	